

報告課題⑧ 第2回テストに向けて（復習プリント）  
表面

「羅城」…城郭の外周のこと。「羅城門」は都の南側にある門。教科書参考図録12（平安京条坊図）「羅生門」の表記は、謡曲の作品に見られるが、最近「羅城門」に統一されてきている。なお、黒沢映画の『羅生門』は芥川の『藪の中』と『羅生門』それぞれから取材して作っている。

『今昔物語集』の中の「羅生門」

今は昔、摂津の国の辺りより盗みせむがために、京に上りける男の、日のいまだ暮れざりければ、羅城門の下に立ち隠れて立てりけるに、朱雀の方に人しげく行きければ、人の静まるまでと思ひて、門の下に待ち立てりけるに、山城の方より人どものあまた来たる音のしければ、それに見えじと思ひて、門の上層に、やはらかきつき登りたりけるに、見れば火ほのかにともしたり。

盗人、怪しと思ひて、連子よりのぞきければ、若き女の死にて臥したるあり。その枕上に火をともして、年いみじく老いたる嫗の白髪白きが、その死人の枕上に居て、死人の髪をかなぐり抜き取るなりけり。

盗人これを見るに、心も得ねば、これはもし鬼にやあらむと思ひて恐ろしけれども、もし死人にてもぞある、おどして試みむと思ひて、やはら戸を開けて刀を抜きて、「おのれは、おのれは」と言ひて、走り寄りければ、嫗、手まどひをして、手をすりてまどへば、盗人、「こは何ぞの嫗の、かくはし居たるぞ」と問ひければ、嫗、「おのれが主にておはしましつる人の失せ給へるを、あつかふ人のなければ、かくて置き奉りたるなり。その御髪の丈に余りて長ければ、それを抜き取りて髪にせむとて抜くなり。助け給へ」と言ひければ、盗人、死人の着たる衣と嫗の着たる衣と、抜き取りてある髪とを奪ひ取りて、下り走りて逃げて去にけり。

さて、その上の層には、死人の骸ぞ多かりける。死にたる人の葬などえせざるをば、この門の上にご置きける。

このことは、その盗人の人に語りけるを聞き継ぎて、かく語り伝へたとや。

※「今は昔」〜「語り伝へたとや」の形が特徴的。

二、「きりぎりす」は現在のコオロギ。奈良時代から秋に鳴く虫の総称として「こほろぎ」が使われた。

三、ゴミの不法投棄の多い場所に鳥居を建てたら、ゴミが減ったという事例からも考えてみよう。

四、②作者が現代人の視点から描いた場面を探す。作品中、P 78 L 7に「作者はさつき、『下人が雨やみを待っていた。』と書いた。」とあるが、その行以降、作者が現代人の感覚で書いている。しかし直後L 15「申の刻」とあり、時刻に関しては古典的な言い回しを交えている。(教科書後部「古典参考図録」8 古時刻の表を参照)

九、「はしごの」「番下の段」 P 84 L 14、「幅の広いはしごの」「中段」 P 84 L 15、「はしごを」「下三段上」としてみると P 85 L 4、などと勘違いをしないようにしましょう。

●裏面

十三、「一文」という表現に注意。「文」とは句点。「(マル)」で区切られた単位のこと。「一部分」や「二文以上」を抜き出すことのないように。

十七、第一六四回以降の芥川賞の受賞作・作者(参考)

164回 令和二年下半年 宇佐見りん『推し、燃ゆ』

163回 令和三年上半年 李琴峰『彼岸花が咲く島』 石沢麻依『貝に続く場所にて』

十八、⑥汗衫(かざみ)は古文内で当時の服装として、⑩検非違使(けびいし)は日本史Bの用語としても覚えておくことよい。ただ、ここに挙げた十二の漢字の読み書きができればよいのではない。本文全体を読み、読み書きしにくい箇所は自分で練習することが必要である。

十九、十八同様、ここに挙げた三つの語句の意味が分かればいいのではない。教科書脚注に「▼」がある語句は、最低限調べておくこと。

※ 同時代文学(参考)(一九一四・『こころ』夏目漱石、『道程』高村光太郎、一九一六・『高瀬舟』森鷗外、『鼻』芥川、一九一七・『城の崎にて』志賀直哉、『月に吠える』萩原朔太郎)など。

※ 歴史的には、第一次大戦(一九一四～)、ロシア革命(一九一七)と同時代と覚えておくと、日本史B、世界史Bを学ぶときに便利。